

〈今月の紙面〉

- ・「食料・農業 知っておきたい話」-80- (2面)
- ・青森で全国開拓青年・女性研修会 (3面)
- ・味・鮮度等を重視、8割超 (4面)
- ・果樹 積雪を破断し枝への負荷軽減 (5面)
- ・乳用牛 次産で繁殖成績改善の傾向 (6面)
- ・分娩後早期の潜在性ケトosis治療で (7面)
- ・黒毛和種 ヒタミンA次回欠乏時期を推定 (8面)
- ・畜産物需給見通し (8面)

開拓情報

発行所
 公益社団法人全国開拓振興協会
 〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
 TEL 03-3586-5843
 FAX 03-3586-5846
 ホームページ http://www.kaitakusya.or.jp
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

第71回通常総会を開催

役員改選で 19年度事業計画等決定

全開連

全開連は10月30日、東京・赤坂の三益堂ビル石垣記念ホールで第71回通常総会を開催した。第71年度(18年8月1日から19年7月31日)事業報告、貸借対照表等を承認し、第72年度事業計画等を可決。また、任期満了にともなう役員改選を行い、全役員が再任された。総会後の理事会では、代表理事会長に平木勇氏(開拓ながさき農協代表理事組合長)を再選した。

開会にあたり、平木会長が挨拶を行い、「今、次に来賓の農水省生産開拓官をはじめとした農業・畜産を取り巻く環境は、大変厳しい状況にあります。本会は役員が一新となり、知恵を絞って、会員・生産者から頼りに、魅力あ

議事に移った。

長が挨拶を行い、「今、次に来賓の農水省生産開拓官をはじめとした農業・畜産を取り巻く環境は、大変厳しい状況にあります。本会は役員が一新となり、知恵を絞って、会員・生産者から頼りに、魅力あ

第1号議案「第71年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、注記表、剰余金処分案及び附属明細書承認について」が上程され、代表理事の監査報告を受けて、賛成多数で承認された。

▽監事

坏幸一(岩手・再) 田中喬(鳥取・再) 藤原辰男(宮崎・再)

最後に付帯決議案が上程され、賛成多数で承認し、閉会した。

総会後、理事会及び監事会が開かれ、代表理事会長に平木勇、副会長に

新津賀庸(北海道・再) 山口正雄(青森・再) 菊地文夫(栃木・再) 平木勇(長崎・再) 牧原保(鹿児島・再) 村上進(実務精通者・再)

新津賀庸、代表理事専務に村上進、代表監事に坏幸一の各氏を互選した。

◇

全開連の第71年度事業取扱高は、購買事業が1億8222万円(計画比109%)、販売事業が4億10億7509万円(113%)、合計5億30億731万円(112%)となった。

第72年度は、第10次中期3カ年計画の2年目にあたる。事業取扱高は購買事業が1億13億696万円、販売事業が3億76億1660万円、合計4億9億2356万円を計画している。

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

計は約600億(約1100億円)となった。品目別にみると、牛肉が最大約474億円減と見込まれる。約2000億円と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続



江藤大臣を表敬訪問

開拓中央三団体代表

全日本開拓者連盟、全開連、全国開拓振興協会の開拓中央三団体の代表が10月30日、農水省に江藤農林水産大臣(写真左から4人目)を表敬訪問。畜産情勢等について、生産現場の現状を説明。代表は平嶋勝博連盟委員長、平木全開連会長、西谷悟郎振興協会会長、藤原辰男宮崎県乳用牛肥育事業農協代表理事組合長ら7名。

日米両政府は10月8日、日米貿易協定文書へ正式に署名。江藤大臣は同協定の合意内容の概要や、直近の畜産情勢を説明した。代表はそれぞれ、生産現場の現状を説明。特に九州の肉用牛経営において、肥育畜生価格の高止まりなどにより、依然として厳しい状況にあることを伝えた。

和牛遺伝資源の知財保護へ

専門部会で検討開始

農水省は10月25日、省内で「和牛遺伝資源の知的財産的価値の保護強化に関する専門部会」の初会合を開催した。7月の「和牛遺伝資源の流通管理」の背景となる国際条約も、行方不明となっており、プロローグが適当であり、不正競争防止法による規制も参考とする。不正所得などに対する適切な救済について、①保護が必

大森さん(青森)に黄綬褒章

政府は11月2日、秋の褒章受章者を発表。青森県上北郡六ヶ所村の(有)大森カウステーション代表取締役・大森敏雄さん(70)が、長年にわたる地域の酪農業に係る功績により、黄綬褒章を受章した。

坂田さん(青森) 全国肉用牛枝肉共助会 最優秀賞

(一社)東京食肉市場協会と東京食肉市場(株)が主催の19年度全国肉用牛枝肉共助会が10月29日、東京都中央卸売市場食肉市場で開催された。

牛肉生産額 最大786億円減

日米貿易協定+TPP11の影響試算

政府は10月29日、日米貿易協定で実質GDP(国内総生産)が約0.8%押し上げられる一方、農林水産物の生産額が最大1100億円減少するとの試算を発表した。

同協定及びTPP11を合わせた影響による生産額の減少は、牛肉が最も大きいと試算している。

経済効果分析は、TPP(環太平洋連携協定)やEUとのEPA(経済連携協定)での試算と同

第4号議案の任期満了にともなう理事6名及び監事3名の選任については、9月30日に開催された役員推薦会議に基づいた役員候補者名簿が告知され、投票。次のとおり理事、監事が決定した。

▽理事

全開連役員陣。右から平木会長、山口・牧原・菊地代表監事、田中・藤原の各監事(新津副会長は所用のため退席)

新津賀庸(北海道・再) 山口正雄(青森・再) 菊地文夫(栃木・再) 平木勇(長崎・再) 牧原保(鹿児島・再) 村上進(実務精通者・再)

新津賀庸、代表理事専務に村上進、代表監事に坏幸一の各氏を互選した。

◇

全開連の第71年度事業取扱高は、購買事業が1億8222万円(計画比109%)、販売事業が4億10億7509万円(113%)、合計5億30億731万円(112%)となった。

第72年度は、第10次中期3カ年計画の2年目にあたる。事業取扱高は購買事業が1億13億696万円、販売事業が3億76億1660万円、合計4億9億2356万円を計画している。

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

計は約600億(約1100億円)となった。品目別にみると、牛肉が最大約474億円減と見込まれる。約2000億円と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

また、同協定とTPP11を合わせた影響も同様に試算。農林水産物の生産減少額は、約1200億(約2000億円)と見込まれる。牛肉が最も大きい。牛乳乳製品が同246億円減、豚肉が同217億円減と続

本紙は無償で提供しています。ご希望の方はお知らせ下さい。

青森で全国開拓青年・女性研修会

「言葉かけ」の講演、酪農施設視察も

19年度全国開拓青年・女性研修会(第38回)が10月16日から18日までの3日間、全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会(主催)により、青森県下で開催された。全国から77名の開拓青年・女性らが参加。秋の陽光に恵まれた中、講演、現地視察など研修にいそしんだ。



橋本青年部長

初日は八戸市番町の「八戸グランドホテル」に集合し、塩島春樹連盟青年部副部長の司会で進行。冒頭、台風19号による犠牲者の冥福を祈って黙とうした。

続いて橋本拓也連盟青年部長が開会挨拶し、「国内農業をめぐる情勢は依然として厳しい状況にある。我々開拓青年・女性は、我が国農業が今後い



第38回全国開拓青年・女性研修会 in 青森

次に、平嶋勝博連盟委員長が開拓三団体を代表して挨拶。さらに、山口正雄(ゆき青森農協代表理事)が地元を代表して歓迎の挨拶を行い、講演に移った。

合い言葉は「いいね!」

講師は、八戸市出身のメンタルプロコーチ・津村氏。津村氏は、人材育成研修や学校での特別授業・部活などで心理面のコーチングを行っている。講演では、「元気になる!」のスイッチの入れ方」と題し、言葉を使ったゲームを行いながら、国民に安心して供給できる安全な食料生産の継続と、環境維持に貢献できる農業経営の実現に向け、さらなる一歩を踏み出そう」と呼びかけた。

「いいね!」と一言、相手は嬉しくなり、勇気づけられる。目標達成には「凡事徹底」が大切。なんでもな

いような当たり前のことを徹底的に行う。当たり前のことにこそ「いいね!」を贈る。また、「ありがとう」を返されると貢献の喜びで元気になる」と述べた。



講演会風景と津村氏

「いいね!」と一言、相手は嬉しくなり、勇気づけられる。目標達成には「凡事徹底」が大切。なんでもな

いような当たり前のことを徹底的に行う。当たり前のことにこそ「いいね!」を贈る。また、「ありがとう」を返されると貢献の喜びで元気になる」と述べた。

「いいね!」と一言、相手は嬉しくなり、勇気づけられる。目標達成には「凡事徹底」が大切。なんでもな

「いいね!」と一言、相手は嬉しくなり、勇気づけられる。目標達成には「凡事徹底」が大切。なんでもな



東北町のディーラーサポート北栄にて

「志度開拓神社再建立之碑」

香川県さぬき市・大串半島



(昭和21)年、海外引揚者、復員軍人、戦災者らが入植。その大半は地元縁故者だった。3つの地区が有り、48年、それぞれ開拓農協社再建立之碑」(同左)が発足。その後、合併して志度開拓農協となった。半島の山頂部に位置する大串地区は、急傾斜で豊かな景勝地。自然公園が拡がり、野外音楽広場、キャンプ場などの施設があった。その解消を図るため、58〜66年にかけて、大規模な道路改良、畑の造成、畑地かんがい施設工事が行われた。完成後は水の問題がなくなり、



開拓の碑

香川県の北東部、さぬき市の大串半島は瀬戸内海に大きく突き出た自然豊かな景勝地。自然公園が拡がり、野外音楽広場、キャンプ場などの施設があった。その解消を図るため、58〜66年にかけて、大規模な道路改良、畑の造成、畑地かんがい施設工事が行われた。完成後は水の問題がなくなり、



上野 末の三地区に五十戸の帰農を志す人達を迎え、数年の間に五十ヘクタールの開墾地を造成した。この間入植者は一致団結、厳しい環境と闘い乍ら血と汗にまみれ鎌を振り、戦後の食糧確保と祖國復興の一翼を担った」と刻まれている。さらに、開墾の成就や五穀豊穣を願い、入植者の心のより所に天照大神を祭神とする「開拓神社」を建立したこと、40年経過による老朽化と周辺整備の必要性から、現在地に移転・再建したことが記されている。

も東北町北栄地区は、県内有数の酪農地帯となっている。(農)北栄トラクタ利用組合のディリーサポート北栄と、その近在の(株)北栄デリーファイアを訪問。同組合参事代表取締役の新山善弘氏の案内により、視察研修した。



同社は、地域の生産基盤維持等のために設立。牛舎やふん尿処理施設が完成間近で、12月の稼働を予定している。牛舎写真(左)はフリーストールで、ロボット搾乳機を4台導入し、搾乳牛240頭、未経産牛ほか84頭、計324頭を飼育する。

未経産 松尾氏 産 西谷氏 三瓶開拓乳用牛共進会 島根県大田市の三瓶開拓酪農協は10月4日、同市の旧・三瓶堆肥化センターで第64回開拓祭を開催。19年度三瓶開拓乳用牛共進会(9月13日、同所で開催)の表彰式、交流会などが行われた。同共進会の優勝は、未経産牛の部が松尾修氏、経産牛の部は西谷悟郎氏の出品牛だった。両氏に、表彰状と副賞が授与された。

- 全開連人事 (11月1日付)
- 理事 増田昌洋(管理) 高田瞬
 - 長代理(管理) 西
 - 理事 井靖彦(管理) 光澤直美
 - 理事 西
 - 理事 全日本開拓者連盟
 - 理事 中央常任委員会
- 開拓組織の動き
- 11月 福岡県畜産農協 肉共進会(福岡)
 - 25日 肉共進会(福岡)
 - 28日 ゆうき青森農協 肉勉強会(東京)
 - 29日 佐賀県開拓畜産事業 協同肉共進会(佐賀)
 - 29日 宮崎県乳用牛肥育 事業農協常務会
 - 5日 肥後開拓農協 肉共進会(熊本)
 - 12日 全開連臨時総会・理事会
 - 12日 全国開拓振興協会 理事会

秋田県果樹試験場

果樹 積雪を破断し枝への負荷軽減
掘るより短時間で処理可能

積雪地帯では、雪の重みによる果樹の枝折れが問題となる。しかし、スコップで雪中から枝を掘り上げる作業は重労働であるため、省力的な方法が望まれている。

秋田県果樹試験場は、軽労働で省力的に果樹の枝折れ被害を軽減することができる器具「沈降力破断器」を開発した。

同器は、全高164cm、幅45cm、器重が約3.5kg。素材は刃先5cmがステンレスで、下部両端51.5cmを鉄板で溶接し補強している以外、すべてアルミ製である(写真①)。

雪の自重と気温の上昇により、雪が下に沈み、密度が大きくなる。これにより生じる圧力を「沈降力」という。雪に埋もれた枝には沈降力がかかり、降雪から日が経過するほど負荷は大きくなる。同試験場は、沈降力の及ぶ範囲(荷重圏幅)について、埋もれた枝を挟んで100cm以内であることを過去の試験から明らかにしている。

埋もれた枝の周囲の雪層を同器で垂直に切断することで、荷重圏幅が狭まり、荷重を大幅に減少させることができる。降雪により増大した荷重は、雪層の切断により10分の1程度まで低下する。その後の降雪で再び増加するが、沈降力に影響する範囲は新たな降雪によるもののみであり、一旦切断した溝が埋まり沈降力が回復または拡大することはない。

〈処理時期〉

1回目の処理は、雪に埋もれた下枝の位置が確認できる積雪深100cm前後が適当で、この処理により枝にかかる荷重が除かれる。2回目は、その後の降雪に応じて積雪深が150cm前後に達した頃が適期となる。

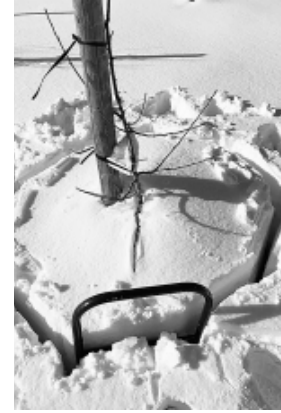
〈切断する位置〉

わい性台樹の場合は、幹から発出した最大側枝長を半径に、円を描くように切断(写真②)。次に、側枝と側枝の間を切断する。埋もれている側枝の位置が明らか場合は、側枝から30cm

写真① 沈降力破断器



写真② 処理の様子



程度離れた周囲で行う。

〈作業性と処理効果〉

17年度に同試験場内で行った試験では、1樹当たりの作業時間は2.1~5.1分だった。スコップで掘り上げる場合より、5分の1~2分の1程度短く、省力性が高い。作業に起因する特別な身体的負担も認められなかった。

試験期間中は、2月に最高積雪深190cmを記録。この積雪条件下での地上150cm以下の平均被害率は、側枝下垂型リンゴ品種「秋田紅あかり」の同器無処理区が27.3%だったのに対し、1月16日、2月1日、22日の同器3回処理で12.9%となった。半分以下まで低下し、処理効果が認められた。

〈留意点〉

同器を雪層に深く挿入した状態で前

円形に切断

側枝間を切断

写真はいずれも秋田県果樹試験場提供

後に大きく振ると、フレームが歪み、破損する場合がある。雪層を切断する際は、前後の動きを小さく、左右への動きを大きくする。

埋もれた枝の位置が分からないまま同器を勢いよく挿入すると、小枝を切断したり、側枝に傷を付ける恐れがある。降雪前に側枝の先端をヒモで主幹に軽く吊るか、イボ竹を立てるなど、埋もれている側枝の位置がおおよそ把握できるようにしておくが良い。

なお、同器は試験目的で作成したもので、一般販売はされていない。作成した企業では、一定の台数をまとめて発注すれば1台8000円前後で購入できるとしている。

作業機装着したまま公道走行可能へ

トラクター 灯火器や車両幅など確認を

国交省は今年の春に、農耕トラクターが農作業機を装着したままでも公道走行できるよう、道路運送車両法の運用見直しを行った。生産現場では、着脱作業の労力や時間削減が見込める。

農水省と(一社)日本農業機械工業会は、メーカーから追加部品などが供給され始めるに当たり、注意点をまとめたガイドブックを作成。10月から周知を開始している。

対象となるのは、被けん引タイプを

除く「ロータリ」「ハロー」「直装式ブームスプレーヤー」など、トラクターに直接装着する作業機。移動時に折りたたみや格納できるものは、折りたたみ格納した状態での走行とする。

また、次の①~④のチェックポイントを満たしていなければならない。

①灯火器類

装着しても、方向指示器、後部反射器、前照灯、車幅灯、尾灯、制動灯、後退灯などの灯火器類が他の車両など

する。循環扇を運転して空気を攪拌し、温度ムラをなくす。また、ハウス内数箇所で温度を測り、温度が均一になるようダクトを配置する。

●気密性を向上させるため、ハウス周壁部や谷部など、被覆の隙間(つなぎ目など)の点検・補修を行う。保温性の高い内張資材の使用や多重被覆を行うと、夜間の放熱を抑えられる。多段式サーモ装置を導入すれば、夜間の変温管理ができる。

●燃烧室内やバーナーノズル周辺に燃烧カスが付着していると、完全燃烧や熱交換が妨げられ、効率的に運転できない。運転を始める前に燃烧カスの清掃を行っておくこと。

循環扇で温度均一

施設の省エネ対策

気象庁の3ヵ月予報によると、来年1月までは全国的に気温が高く推移するとされている。施設園芸では、暖房をより効率的に運転し、燃料費などの削減が見込める。

農水省ホームページの「施設園芸省エネルギー生産管理チェックシート」を活用し、省エネとなっているかを加温開始前に確認しておくことが有効。その他、重要な点をまとめた。

●ハウス内に局所的な低温部があると、温度確保のため余分な燃料を消費

直装タイプの作業機

◎ 運用が見直された

- ・ロータリ
- ・ハロー
- ・ブロードキャスト
- ・播種機
- ・ライムソフ
- ・ブームスプレーヤー
- ・他

〈後方装着〉

〈前方装着〉

- ・フロントローダー
- ・他

被けん引タイプの作業機

△ 運用見直しを検討中

- ・ロールベアラ
- ・トレーラ
- ・マニユアスプレッダ
- ・バキュームカー
- ・他

(一社)日本農業機械工業会作成ガイドブックより
合、運行速度15km/h以下で走行しなければならない。

④免許

小型特殊・普通免許で運転ができるのは、装着した状態での寸法が、長さ4.7m以下、幅1.7m以下、高さ2.0m以下(安全キャブや安全フレームの高さ2.8m以下)を満たすものとなる。装着することで1つでも寸法を超える場合、これまで通り大型特殊免許が必要となる。

各チェックポイントの詳細は、農水省や同会のホームページから確認できる。なお、被けん引タイプについては現在検討中であり、結論が出次第、発表を予定している。

多品目で減少続く

19年果樹・茶栽培面積

農水省がこのほど公表した「19年果樹及び茶栽培面積(7月15日現在)」によると、多品目で減少が続いている。

ミカン、1000ha(2%)減の4万800ha。栽培面積の大きい順に、和歌山

が90ha減の7410ha、愛媛が100ha減の5700haなど。リンゴは、300ha(1%)減の3万7400ha。主産地では、青森が100ha減の2万500ha、長野が80ha減の7500haなど。茶は、900ha(2%)減の4万600ha。主産地では、静岡が600ha減の1万5900ha、鹿児島が10ha減の8400haなどとなっている。

愛媛県農林水産研究所畜産研究センター

乳用牛 次産で繁殖成績改善の傾向
分娩後早期の潜在性ケトosis治療で

乳用牛において、症状をとまわらない「潜在性ケトosis」が問題となっている。分娩後早期に見つけて治療することが望ましいが、その後の繁殖性に及ぼす効果は不明な点が多い。

愛媛県農林水産研究所畜産研究センターは、調査結果から、分娩後早期の潜在性ケトosis治療により繁殖成績が改善される傾向がみられることを明らかにした。

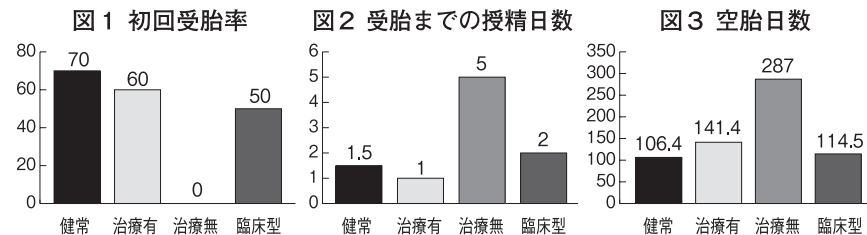
調査は、同センター内で16年6月から17年7月に分娩した19頭のホルスタイン種泌乳牛について行った。潜在性ケトosisの診断は、血中のβ-ヒドロキシ酪酸(以下、BHBA)濃度を用いた。

分娩後7~10日の定時(14時:配合飼料給与4時間後)に採血した全血を測定。診断は、血中BHBA濃度が1.2mmol/L未満を「健常牛」、1.2mmol/L以上3.0mmol/L未満を「潜在性ケトosis牛」、3.0mmol/L以上を「臨床型ケトosis牛」とした。さらに、「潜在性ケトosis牛」のうち、糖因性物質を投与した「潜在性ケトosis治療有」、投与しなかった「同治療無」に分けた。

測定には、生産現場でも普及しつつある、人の糖尿病用ポータブル測定器(βケトン測定電極)を使用した。潜在性ケトosisの治療は、プロピレングリコール製剤を5日間連続投与後の翌日に、再度血中のBHBA濃度を測定し1.2mmol/L未満であれば、完治したとみなし治療を終了。1.2mmol/L以上であれば、25%ブドウ糖溶液及びメチオニン製剤を静脈内投与し、1.2mmol/L未満になるまで治療を継続した。臨床型ケトosisの治療は、25%ブドウ糖溶液、メチオニン製剤、アミノ酸製剤を臨床症状が回復するまで連続投与した。

調査の結果、供試牛19頭中、健常牛は10頭(52.6%)、潜在性ケトosis牛は7頭(36.8%)、臨床型ケトosis牛は2頭(10.5%)だった。

初回受胎率は、健常牛70%、潜在性ケトosis牛治療有60%、同治療無0%、臨床型ケトosis牛50%(図1)。受胎までの授精回数は、健常牛1.5回、潜在性ケトosis牛治療有2回、同治療無5回、臨床型ケトosis牛2回(図2)。空胎日数は、健常牛106.4日、潜在性ケトosis牛治療有141.4日、同治療無287日、臨床型ケトosis牛114.5日だった(図3)。



	健常牛		潜在性ケトosis牛		臨床型ケトosis牛
	初回発情確認日数	初回 AI 日数	治療有	治療無	
初回発情確認日数	68.8 ± 16.8	70.2 ± 31.4	45.7 ± 14.8	65.0 ± 9.9	
初回 AI 日数	89.5 ± 21.5	97.4 ± 15.4	90.0 ± 15.6	93.0 ± 29.7	
平均値 ± 標準偏差					

図、表とも愛媛県農林水産研究所畜産研究センターの資料より

区間で有意な差は認められなかった(表)。しかし、潜在性ケトosis牛では、調査したすべての項目で悪化する傾向が認められ、繁殖性に影響を及ぼす可能性があると考えられた。

潜在性ケトosis牛への治療実施の結果、実施しなかった牛よりも、初回発情日数で24.5日、初回受胎率で60%、受胎までの授精回数で3回、空胎日数で145.6日の改善がみられた。

以上により、獣医師に依頼して、BHBA濃度から分娩後早期に潜在性ケトosis牛を摘発・治療することは、乳用牛の繁殖性改善の一助になると示唆された。

千葉県畜産総合研究センター

繁殖母豚 育成期DG0.55kgに制限給餌
産子数多く繁殖成績良好

初産から良好な繁殖成績を示すような、母豚の飼養管理方法の確立が望まれている。

千葉県畜産総合研究センターは、母豚の育成期(90~180日齢)において、繁殖能力が十分に発揮される適正な飼料給与水準を検討するため、育成豚の発育成績及び繁殖成績を調査した。

調査には、同センターで系統造成途中のランドレース種(第6世代豚)を用いた。生後約90日齢で、体重がおおよそ60kgになった時点から制限給餌を開始した。各区8頭の3区を設け、DG(1日平均増体量)がそれぞれ0.45kg、0.55kg、0.65kgとなるように1日当たりの給与量を設定。制限給餌を行うのは育成期間中とし、0.45kg区と0.55kg区は市販の種豚育成用配合飼料、0.65kg区は産肉能力検定飼料を給与した。180日齢時点で各区4頭をと畜し、生殖器の発達状況を調査した。

各区残りの4頭は、分娩させて繁殖成績を調べた。180日齢以降は全区同一の管理とし、分娩の1週間前まで市販の種豚用配合飼料を1日1頭当たり

2.5kg給与。生後240日齢以降から、1回の発情で2回人工授精を行った。分娩後から離乳までは、市販の母豚用配合飼料を不断給餌とした。

調査の結果、育成期間中は飼料摂取量の多い順に体重が重く推移し、各区とも設定通りのDGを示した。制限給餌による、生後180日齢時の生殖器の発達への悪影響もみられなかった。平均受胎日数は0.55kg区が最も早い258日齢で、4頭とも1回で受胎した。一方、0.65kg区は平均280日齢で1.5回となった。

繁殖成績をみると、0.45kg区と0.55kg区で総産子数及び生存産子数が多く、3週齢時一腹総体重も良好だった(表1)。子豚のDGは、産子数の少ない0.65kg区で生時~3週齢までほとんど変わらない成績を示した。一方、0.45kg区と0.55kg区は2週齢以降、徐々に増え、2~3週齢時には0.65kg区とほぼ同程度となった(表2)。発情回帰日数では、0.55kg区が5.3日、0.65kg区が6.3日、0.45kg区が8.3日の順だった。

表1 繁殖成績

試験区	生時			3週齢時		
	総産子数(頭)	生存産子(頭)	体重(kg)	頭数(頭)	体重(kg)	一腹総体重(kg)
0.45kg区	13.3 ± 3.5	12.8 ± 3.0	1.43 ± 0.28	11.8 ± 3.0	5.94 ± 1.26	69.8 ± 7.4
0.55kg区	12.5 ± 1.9	12.3 ± 2.1	1.48 ± 0.34	11.5 ± 2.9	6.08 ± 1.10	70.0 ± 12.0
0.65kg区	9.3 ± 3.6	9.0 ± 3.9	1.78 ± 0.39	8.3 ± 4.0	7.20 ± 1.92	59.4 ± 13.5

平均値 ± 標準偏差

以上により、育成豚において、生後90日齢から180日齢までDG0.45kgまたは0.55kgとなるように

制限給餌すると、産子数が多く良好な繁殖成績を示すことが分かった。しかし、DG0.45kgの母豚で毛づやなどの状態が若干悪くなる。

試験区	生時~1週齢	1~2週齢	2~3週齢	生時~3週齢
0.45kg区	167 ± 56 ^b	216 ± 76 ^b	258 ± 62	214 ± 52 ^b
0.55kg区	186 ± 39 ^b	225 ± 73 ^{a,b}	245 ± 70	219 ± 40 ^b
0.65kg区	250 ± 64 ^a	268 ± 78 ^{a,b}	257 ± 104	258 ± 75 ^a

表1、2ともに千葉県畜産総合研究センターの資料より

同センターは、DG0.55kgとなるように設定し、交配は240日齢以降(体重約120kg)で開始することが、良好な繁殖成績につながると推察している。

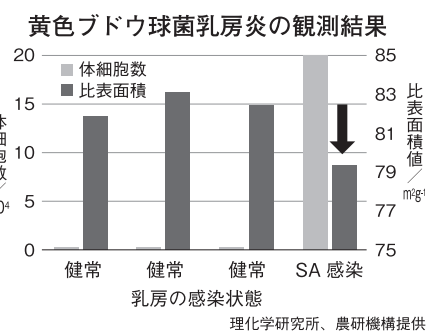
新技術 難治性乳房炎の早期診断可能に
搾乳機への小型分析機設置を想定

理化学研究所と農研機構の共同研究チームは10月24日、黄色ブドウ球菌(以下、SA)が原因で起こる難治性乳房炎を早期診断できる技術を発表した。

酪農において、乳房炎は常に問題となり、生産性を低下させている。特にSAによるものは、抗生剤が効きにくく再発しやすいことから、難治性とされている。

研究チームは、小型パルス核磁気共鳴装置(NMR)による乳汁の測定結果を、乳房炎診断に用いる手法を考案。同装置は、非破壊的に物体の化学反応や形状変化を追跡するもので、牛体を傷つけず乳汁を測定することができる。

パルスNMR測定では、乳汁に含まれる微粒子の単位質量当たりの表面積(比表面積)が得られる。この値が、乳房炎の炎症症状の指標である乳汁中体細胞数と関係性があること



に着目。SA感染した乳房の乳汁における比表面積は、健常乳房の乳汁よりも低い値を示す(図)。これを利用することで、SA増殖の初期段階を察知し、早期治療が可能となる。

将来的に、生産現場で超小型NMRを搾乳機に直接設置し、搾乳時に乳房ごとの比表面積をモニターする利用法が考えられている。これにより、酪農作業の省力化や生産性向上を図ることができる。さらに、SA感染以外の乳房炎(乳酸発酵を行わない無菌性のもの)に対しても判別可能になると期待できるという。

新潟県農業総合研究所畜産研究センター

黒毛和種 ビタミンA次回欠乏時期を推定
枝肉重量・肉質保持に活用

肥育中期は脂肪交雑の発達に重要な期間であり、ビタミンAの制御が重要となる。

しかし、極端に制限すると食欲が減退し枝肉重量の低下につながる。投与量と欠乏までの日数の明確な指標がなく、欠乏症状を起こしてからビタミンAを投与後、次の欠乏域になるまでの期間を見通すことは難しい。

新潟県農業総合研究所畜産研究センターは、欠乏症の牛が次に危険域になるまでの日数を簡単に推定できる方法を考案した。

試験方法

試験には、黒毛和種去勢牛12頭(父「安茂勝」)を供試。20万IU区、50万IU区、100万IU区の3区を設け、4頭ずつとした。18~23ヵ月齢の肥育中期に行い、平均29ヵ月で出荷した。試験期間は15年11月~16年3月。肥育中期

はビタミンAを含まない飼料、24ヵ月齢から出荷までは含んでいる飼料を給与した。

血液検査で欠乏が懸念される30IUまで下がった時点で、ビタミンA経口剤(ビタミンA:2万5000IU/ml、ビタミンD3:1万2500IU/ml、ビタミンE:37.5IU/ml)を各区の量でそれぞれ投与した。投与後の採血頻度は、おおむね2~3日に1回のペースで行った。

試験結果

各区の投与後のデータを分析すると、20万IU投与区では、投与後22日後、血中濃度が30IUを下回りはじめ、再び欠乏域に達した。50万IU投与区では50日後、100万IU投与区では97日後に欠乏域に下がった(図1)。

各区の投与量から、ビタミンA投与量と保持日数の間には高い相関があり

(図2)、(投与単位÷1万IU)で次の欠乏時期が推定可能であることが示された。投与量に対する見かけの1日当たり消費量は約1万IUと推定される。

出荷成績に有意差は無く、投与量の違いは保持日数の差が出るのみで、重量・肉質には影響しなかった。各区とも枝肉重量は平均500kgを超え、BMS No. は平均6.3~8.0だった。

格付の内訳は、それぞれ20万IU区ではA5が1頭、A4が3頭、50万IU区ではA5が2頭、A4が1頭だった(1頭は増体不良で淘汰)。100万IU区ではA5が1頭、A4が2頭、A3が1頭だった。

同センターは留意点として、血液検査後に欠乏状態だった牛の推定方法で

図1 ビタミンA投与後日数と血清中濃度の関係

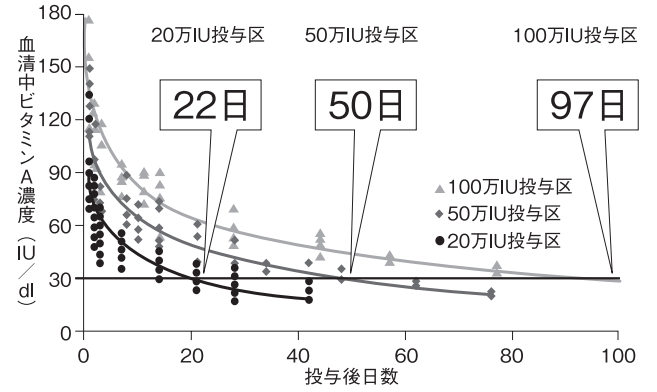


図2 ビタミンA投与量と血清中濃度の保持日数の関係

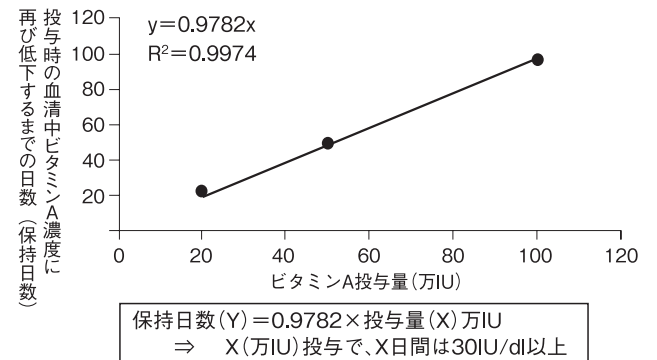


図1、2ともに新潟県農業総合研究所畜産研究センターの資料より

あり、ビタミンAが十分、あるいは未投与牛で推定するものではないことを挙げた。また、ビタミンAが添加された配合飼料給与で対応する場合には、1日当たりビタミンA摂取量を考慮する必要があるとしている。

冬場もビタミンA不足に注意
ズルの発生対策

素牛価格の高止まりや飼料費が多くなることから、牛枝肉の瑕疵の発生はできる限り避けたい。近年、枝肉の瑕疵のうちズル(水腫)が増加傾向にある。

一部廃棄でも枝肉価格を低下させるが、重度で広範囲に及んでいると全廃棄になる危険もあるため、注意が必要となる。全開連「交雑種牛飼養管理の実践」などから、注意点を確認する。

ズルは前駆(肩口)、スネ、モモ部分に多くみられる。原因として多いのは消耗、給与制限、維持量不足などによるビタミンAの欠乏である。今年の夏

は異常なまでに気温が高かったため、この時期、欠乏症状が出ている牛がないか、よく個体観察する必要がある。

また、心臓、肝臓、腎臓などの内臓疾患や関節炎、ケガにより長い時間牛が横になる状態が続くことにより発生するものもある。ストレスの防止や飼養管理を徹底し、牛舎の突起物などケガの原因になるものをなるべく撤去する。

ズルは、治ってもシコリ(筋炎)など別の瑕疵になり、販売価格が低下する。対策は、枝肉に正常な値段が付くように丁寧に取り組みたい。

テトラサイクリン系物質
「飼料添加物」取消し
在庫11月中に使いきりを

抗菌剤の不適切な使用が重なると薬剤耐性菌出現の原因となり、家畜や人の感染症治療を困難にする。国際的な問題となっているため、薬剤耐性対策アクションプランが進められている。

抗菌剤は動物用医薬品のほか、飼料効率や増体などを高めるため、飼料に混ぜて与える添加物としても使用されているが、薬剤耐性菌が出現する危

険性がある。

農水省は、食品安全委員会のリスク評価で、家畜や人の健康に悪影響を及ぼすリスクが高い抗菌

剤の検討を行っている。12月27日から、「テトラサイクリン系物質」の飼料添加物としての指定が取り消される。

同物質の添加された飼料が12月以降も在庫として残っていないよう、11月中には現在の在庫を使いきる必要がある。使用禁止後に同物質の含まれる飼料を与えると飼料安全法違反となるので、十分に注意する。

出荷した牛はなるべく廃棄されることなく正常に販売されることが望まれる。牛体内の注射針の残留は、廃棄が出て損害につながるだけでなく、流通した場合、消費者の継続的な牛肉の消費に悪影響を及ぼすリスクがある。

以下の点に注意し、出荷後の段階で針の残留が発覚する事態にならないよう十分注意する。

○針の残留を防止

獣医師の指示に基づき、注射を実施する際には、家畜の保定を確実に。曲がったり破損のある注射針は使用せず、なるべく折れにくく埋没しにくいものを使用する。入荷・使用・廃棄時の記録を取り、在庫本数を確認しておくこと。

注射針の残留に注意

記録・申告忘れず

針の破損が確認されたら速やかに牛体から除去する。病気の治療を行った牛については、記録を徹底し、獣医師からの指示書を保管する。

○除去できなければ必ず申告を

残留の疑いが出た段階で、可能な限り除去する。残留していることが分かっても除去ができない場合には、個体識別番号と投与日、使った薬剤、注射部位を記録し、出荷まで識別しておくこと。

出荷の際に、出荷先やと畜検査を実施する食肉衛生検査所に針の残留を必ず申告し、と殺・解体などの段階で針の除去が必要であることを伝える。

また、残留個体が分からない場合には、牛房ごと等、全体を残留疑いとして申告する。

牛マルキン19年9月分
乳用種で発動

農畜産業振興機構は11月8日、19年7・8・9月分の肉用牛肥育経営安定交付金制度(牛マルキン)の補てん金単価(確定値)を公表した。いずれの月も乳用種で補てんが行われる。

補てん金単価は、

7月が3万5702.1円、8月が2万6905.5円、9月が2万8826.1円。

なお、7・8月に販売された交付対象牛に対する精算払の額については、確定値と概算値の補てん金単価の差額となる。

19年度 牛マルキン交付金算定基礎
【19年9月】

区分	交雑種	乳用種
標準的販売価格 (A)	758,838	459,766
標準的生産費 (B)	749,128	491,795
差額 (C)=(A)-(B)	9,710	△32,029
交付金単価 (D)= (C) ×0.9	-	28,826.1

畜産物需給見通し

牛枝肉

最需要期入りで強もちあいも、上げは小幅か

10月は台風災害や消費税増税などの影響で消費が低迷し、相場は弱含みとなった。堅調だった交雑種もやや緩んだ。

今月から年末に向けて、需要が高まる時期となる。引き合いが強まり、相場は上昇基調となることが予想される。

【乳去勢】10月の東京市場乳牛去勢B2の税込み平均枝肉単価(速報値、以下同じ)は1022円(前年同月比98%)となり、前月に比べ45円上げた。

農畜産業振興機構の需給予測によると、11月の乳用種の全国出荷頭数を2万9800頭(97%)と見込んでいる。11月の輸入量総量は4万7500t(92%)と予測。内訳は、冷蔵品が2万3000t(93%)、冷凍品は2万4500t(92%)。冷蔵品は輸入業者の買い付け時の国内需要が低調だったこと、冷凍品は買い付け時の国内在庫が高水準だったことなどから、ともに前年同月をかなり下回るとしている。

【F₁去勢】10月の東京市場の交雑種(F₁)去勢税込み平均枝肉単価は、B3が1606円(前年同月比101%)、B2は1471円(101%)となった。前月に比べ、それぞれ6円、5円の下げで高値を維持した。

同機構は、11月の交雑種の全国出荷頭数は2万2900頭(93%)と、引き続

き前年同月を下回ると予測している。

【和去勢】10月の東京市場の和牛去勢税込み平均枝肉単価は、A4が2379円(前年同月比94%)、A3は2179円(95%)となった。前月に比べA4は31円下げ、A3は7円上げた。A5は2685円(94%)と38円下げた。いずれの等級も前年同月を下回って推移している。

同機構は、11月の和牛の全国出荷頭数は4万9100頭(96%)と、減少に転じると予測している。全品種の出荷頭数は10万3300頭(96%)と見込んでいる。

気温の低下にともなう鍋物需要の高まりで、引き合いが強まることが期待される。焼き肉の需要も底堅い。また、歳暮向けの需要も見

込める。年末を控え、最需要期に入る。

一方、すべての品種で出荷頭数の減少が予測されている。各品種の相場は強もちあいになることが予想される。ただ、消費税増税の影響で、例年に比べて小幅の上げにとどまるものとみられる。

向こう1ヵ月の東京市場の税込み平均枝肉単価は、乳牛去勢B2が1000~1050円、F₁去勢B3が1600~1650円、B2は1450~1500円、和牛去勢A4が2350~2450円、A3は2150~2250円での相場展開か。

鍋物需要の高まりに期待

(頭、kg、円)

ブロック	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		円/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	631	571	297	296	232,563	226,039	783	764
	F ₁ 去	973	1,098	316	317	481,035	452,209	1,522	1,427
	和去	1,454	1,376	310	311	789,288	771,830	2,546	2,482
東北	乳去	2	-	211	-	78,100	-	370	-
	F ₁ 去	4	4	290	291	451,000	396,630	1,555	1,365
	和去	1,633	1,875	305	304	766,871	785,667	2,512	2,588
関東	乳去	2	5	244	229	116,600	141,264	478	616
	F ₁ 去	103	146	311	299	465,502	422,628	1,495	1,411
	和去	948	720	268	276	759,129	757,853	2,837	2,750
北陸	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F ₁ 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	-	96	-	279	-	748,271	-	2,682
東海	乳去	9	8	294	291	255,688	248,535	870	854
	F ₁ 去	85	75	298	308	401,215	416,938	1,346	1,355
	和去	243	445	254	265	825,253	791,589	3,253	2,989
近畿	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F ₁ 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	395	419	252	259	886,009	905,939	3,510	3,498
中四国	乳去	59	77	282	280	214,015	208,608	758	746
	F ₁ 去	179	172	315	316	461,336	479,865	1,463	1,517
	和去	902	510	283	281	750,869	777,726	2,650	2,764
九州・沖縄	乳去	4	14	306	237	231,275	198,951	757	840
	F ₁ 去	97	244	307	312	461,127	450,709	1,502	1,443
	和去	6,372	9,259	288	290	789,028	790,524	2,735	2,722
全国	乳去	707	684	295	293	230,537	223,245	781	762
	F ₁ 去	1,441	1,739	314	314	471,346	450,601	1,501	1,435
	和去	11,947	14,700	289	291	784,721	789,311	2,715	2,712

注：(独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。-は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

19年度下半期 食肉専門店で見雑増加

小売業者の販売動向見通し

農畜産業振興機構は10月31日、全国の主要な小売業者(量販店19・食肉専門店63社)などを対象とした「食肉販売動向調査結果(19年度下半期)」を公表した。外食需要の拡大や肉ブームの継続などを背景に、前年同期に比べ、量販店では和牛や輸入牛肉、食肉専門店では交雑種の取り扱いが増える見通しとなっている。

19年度上半期の食肉取扱割合(重量ベース、以下同じ)の実績は、量販店では牛肉28%、豚肉44%、鶏肉28%だった。前年同期と比べると、牛肉は3割減少し、豚肉は2割、鶏肉は1割それぞれ増加した。

食肉専門店では牛肉45%、豚肉36%、鶏肉19%だった。牛肉は2割増加、豚肉は同率、鶏肉は2割減少した。量販店と比べて和牛の取扱割合が高く、輸入食肉の割合が低い。

19年度下半期の販売見通し(前年同期に比べ「増加」「同程度」「減少」のいずれかを回答)は、量販店では交雑種と国産豚肉は「同程度」が最も多かった。和牛、輸入牛肉、輸入豚肉、国産鶏肉は「増加」が、乳用牛と輸入鶏肉では「減少」が最も多かった。輸入牛肉の増加割合が高い(58%)理由は「他畜種からの需要シフト」が多い。乳用牛の減少割合が高い(73%)理由は「数量減少及び仕入れ価格の高騰」が挙げられた。

食肉専門店では、すべての食肉で「同程度」が最も多い中、交雑種、国産豚肉、国産鶏肉は「増加」が「減少」を上回った。交雑種の増加割合が高い(18%)理由は「特売回数の増加」が多く挙げられた。一方、和牛の減少割合が高い(22%)理由は「消費者の低価格志向」や「仕入価格上昇分の価格転嫁が困難」が多く挙げられた。

豚枝肉

鍋物需要活発化も在庫多く、もちあいの展開か

10月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が501円(前年同月比109%)、中物は467円(108%)となった。前月に比べ、それぞれ52円、59円下げた。

豚コレラ発生の需給への影響が不透明だったが、1日当たりの出荷頭数は、ほぼ安定基調。大型台風や豪雨により、消費は振るわず、相場は弱気配で推移した。

農水省の肉豚生産出荷予測によると、11月は141万6千頭(前年同月比95%、過去5年同月平均比99%)、12月は146万2千頭(101%、100%)と平年並みを見込んでいる。

素牛

スモール

乳素牛は強もちあい、和子牛も上げの展開か

【乳素牛】10月の乳素牛の全国1頭当たり税込み平均価格(左表、月末の取引結果を除く暫定値)は、乳去勢が23万537円(前年同月比89%)、F₁去勢が47万1346円(101%)となった。前月に比べ、それぞれ7292円、2万745円上げた。北海道で両品種の相場が上伸した。

例年、素牛相場が上がる時期を迎える。枝肉相場が堅調に推移していることから、両品種とも強もちあいの展開か。

【スモール】10月の全国23市場の1頭当たり税込み平均価格(農畜産業振

興機構の需給予測によると、11月の輸入量は総量で7万9000t(前年同月比95%)の見込み。内訳は、冷蔵品が3万5300t(89%)、冷凍品は4万3700t(101%)。冷蔵品は、輸入業者の買い付け時の国内需要が低調だったことから、前年同月を大きく下回ると見込んでいる。国産品と輸入品を合わせた期末在庫量は、依然として前年同月を大幅に上回る(130%)と予測している。

鍋物需要の高まりによる荷動きの活発化に期待がかかる。ただ、在庫量が多いことから相場の上伸は見込めず、もちあいの展開が予想される。

向こう1ヵ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が480~510円、中物は420~450円での相場展開か。

興機構調べ、暫定値)は、乳雄が9万7589円(前年同月比77%)、F₁(雄雌含む)は25万409円(96%)となった。前月に比べ、それぞれ5924円、1万7476円下げた。

両品種の出生頭数が減少傾向の中、相場が緩んでいる。年末に向けて肥育牛の出荷が増えており、両品種とも相場は小戻す展開か。

【和子牛】10月の和子牛去勢の全国1頭当たり税込み平均価格は、78万4721円(前年同月比99%)となった。前月に比べ4590円下げた。4月から連続で前月を下回っている。

牛肉の最需要期入りで、肥育牛の出荷が増えている。子牛の導入が活発化し、相場は上げの展開が予想される。